



露國
時事
日録

明治三十八年十二月分

特別
14
2090
(16)



六
年

露國の内亂

聖彼得堡スロウオ新聞の所報に據れば二十八日セバストポールに於て戦闘二時間半に及びたり叛徒の船艦より要塞に向つて砲火を開きしに巡洋艦オチャコフは砲弾に貫ぬかれて爆發し炎々たる火焰に包まれたり巡洋艦ドニーペル(元義勇艦隊汽船なりしを戰時中巡洋艦に變裝され地中海に於て外國船舶の臨検捕拿等を行ひ物議を起したる艦)及び他の一船は數隻の水雷艇と共に擊沈せられたり叛徒を指揮し居たるシヨット大尉は重傷を負へり此に於て全艦隊は降伏せしが市の一半は破壊されたりこ波羅的海のりポー軍港にも重大なる謀叛あり尙クロンスタットに於ても又復謀叛の恐あり

此
以

華盛頓電報 (十一月三十日) (特電)

●暴動打破さる
トボールの暴動は戦闘二時間半の後打破
られたり

●軍艦焼沈
軍艦オチャコフ
今焼けつゝあり又アルセツア、ドニー
ル及び其の他一隻(軍艦か汽船か不明)は
沈没せり

●市街破損
セバストポール
の市街は非常の破損を受けたり

●電信杜絶
セバストポール
と彼得堡との電信連絡は杜絶せり

倫敦電報 (十一月三十日) (特電)

●露國電信不通
倫敦
レグラフの所報に據れば同盟罷業は露西
亞全國に互り電信は芬蘭廻りの覺東な
る線を除くの外全く不通なり

倫敦電報 (一日發) (上海經由) (禁轉載)

露國の亂麻

露都の聖彼得、聖保羅要塞衛兵
は點呼に由て集合せしに其の内の砲兵は二日前に捕縛
せられたる夫の陸軍電氣學校生徒二百三十名を即時釋
放せんことを要求したり此の要求要塞司令官に傳達せ
らるゝや司令官は之を應諾したり
近衛兵若干は警察事務執行に反對の要求を提出せし廉
に因リツアールスコエ、セロ宮に於て捕縛せられたり
セバストポールに於ては忠順の軍隊を以て叛兵の營舎
を占領し叛兵二千名速射砲を曳て降伏せし由公報に由
て確めらる
巡洋艦オチャコフは火災に由て艦内燬壞されしが今尙
浮び居れり
露都に於て同盟罷業に加はり居る者十一萬人に及び莫
斯科にては同じく五萬八千七百人に達せり

此
以

此
以

此
以

此
以

華盛頓電報

衛兵逮捕

露帝の宮城を警護する鎮衛隊の兵士にして或る嫌疑の下に逮捕せられたる者あり

暴徒逮捕

セバストポールの暴徒は若戦の末遂に逮捕せられたり

軍艦沈没

軍艦オチヤコフは七機の砲丸を受けたる後沈没せり

電報杜絶

彼得堡の電報は軍用の外一切杜絶せらる

ルーター電報

露國愈危し

聖彼得堡のルーター通信員は報じて曰く政府の採用せる方針は革命黨の手傳ひとなる自殺的行爲と見做さるる也
露都の財界及び實業界は愕然として色を失ひ昨日も更に又大暴落を重ねた
他の地方は勿論聖彼得堡及び莫斯科にても現王朝の餘命は最早指折り算ふる許りの短日なりこの宣言書を頒布せり

セバストポールの警兵は露國を警護するの報あり

伯林電報

暴動鎮壓

セバストポールの暴動は鎮壓せられたり

罷業再起

彼得堡には再び労働者の同盟罷業起れり同市には電信局の吏員も同盟罷業を始めたり

波蘭戒嚴令解除

(二) 以上は既由終まり

波蘭の戒嚴令は解除せられしり

莫斯科の大穴

(三) 昨日華盛頓打電
莫斯科は大穴を燬し煙を上げてあり彼得堡との交通断絶せり

露廷内の陰謀

(倫敦十二月二日ロイテル電報)
露國近衛隊將校若干名が於て拘引せられたりクローター之の可
し。の陰謀に依れば某大公は露帝に
聖彼得堡の風を依れば某大公は露帝に
對する陰謀に關係したりといふ近衛將校
若干名が陰謀を計畫したりとの説は幾
分のあり然れども大公が之に關係したる
や否やに就きては確言し難し
然れども官憲は重大なる出来事ありた
りとの報を容認し居れり
ザースコエセロ及び聖彼得堡はコサツク
兵を以て蟻集しつゝあり開く所に依れば
全國の全コサツク兵動員されたりと

切事
三
明

三
日
上
は
既
由

露債暴落 (佛國の恐慌)

露債暴落 (佛國の恐慌) 露國の形勢巴里の株式取引所に影響を及ぼしつゝあり即ち同取引所に於ける露國公債の暴落は一般の不況を來たしつゝあり佛國の有する露債總額は五億磅 (五十億圓) にして利札不拂の憂慮既に人の口に上れり

電信全不通

彼得堡への電信交通は全然杜絶したり

● 中右氏 博多 三ノ木

ウキワラ伯ハ中右氏の文に
に於ては其の政を其の
一般の人は其の政を其の
せり

以下
15 丁
白紙



